

設置目的

国際学術交流室は、組織的な国際交流を円滑に進めることを目的として、平成22年4月に設立されました。

本館は、創設以来グローバルな視野をもち、積極的に海外の研究機関や研究者と連携、協力しながら研究活動と博物館活動をおこなってきました。国際学術交流という点では大学共同利用機関の中でも先駆的な役割を果たしてきたといえるでしょう。

20世紀末に始まった情報通信技術革命は、国際的な情報交換のスピードと量を飛躍的に増大させました。その結果、本館の国際的な活動はもはや個人の努力や関係では処理しきれない状態となり、組織的、戦略的な国際交流が求められています。国際学術交流室は、これまで蓄積されてきた海外の研究機関、研究者との関係を活かしつつ、本館がより戦略的、より組織的に国際的な研究連携や共同研究を推進するために、以下のような活動を行っています。

海外の研究機関との研究連携、研究協力の推進

研究連携や研究協力のために、海外の研究機関との学術協定について、調査・締結を進めています。

平成26年度は、5月にマリ・文化省文化財保護局と、7月に米国・北アリゾナ博物館との間で学術協定を締結しました。

協定先機関名	協定締結日	協定の概要および平成26年度活動概要
北アリゾナ博物館 (米国)	平成26年7月4日	学術交流・研究の強化・発展。26年度には、同館から2名を招聘し、本館において国際ワークショップを開催した。また、同博物館を訪れ、収蔵資料の写真撮影を行った。
文化省文化財保護局 (マリ)	平成26年5月7日	マリの文化財の保護と研究、教育、普及に関する協力。26年度には、今後の出版計画の策定と発掘調査を実施した。
国立パリ・デカルト大学・人口開発研究所 (フランス)	平成24年11月30日	学術交流および協力の推進など。26年度には、昨年開催した国際シンポジウムの成果を取りまとめ、出版した。
中国社会科学院民族学・人類学研究所 (中国)	平成24年8月28日	学術交流ならびに研究プロジェクトや研究資料、学術情報及び公開出版物の交換と相互利用の展開など。26年度には、中国、香港、台湾、韓国、アメリカから研究者を招き、本館にて国際シンポジウムを開催した。
国立博物館 (フィリピン)	平成24年7月18日	共同研究、研修、出版、展示等のプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進など。26年度には、同館との共同執筆論文がジャーナルに受理された。
アシウィ・アワン博物館・遺産センター (米国)	平成24年6月3日	学術協力、共同研究のプロジェクトの展開、博物館資料の展覧および教育分野における協力活動など。26年度には、本館において開催した国際ワークショップにズニ博物館長を招聘し、資料熟覧の具体的な方法に関するデモンストレーション・口頭発表などを行った。
ベトナム生態学生物資源研究所 (ベトナム)	平成24年3月22日	共同研究、研修、出版、展示等のプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進など。26年度には、同研究所との共同執筆論文がジャーナルに受理された。
ロシア科学アカデミー・ビョートル大帝記念人類学民族学博物館 (クンストカメラ) (ロシア)	平成23年10月21日	学術・文化の両分野における相互交流および協力関係を発展など。26年度には、同博物館が有する日本関連の資料のうち、シーボルト、フィッシャーが収集した資料に関する調査を実施した。
ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所 (ロシア)	平成23年6月1日	考古学、人類学、及び民族学の共同研究の推進など。26年度には、同研究所から人類学者を1人招聘し、民族社会学に関する共同研究を実施した。また、極東ロシアとオセアニアの政治動向と先住民の活動に関する比較共同研究を実施した。
ロシア民族学博物館 (ロシア)	平成22年12月3日	博物館学、調査研究、文化財保護の各分野における協力と相互支援の推進など。26年度には、日本・ロシア双方で、ワークショップや視察を行い、両国から多数の参加があった。また、本館にてシベリア諸民族の文化に関する国際シンポジウムを開催し、同博物館からも研究者を招聘した。
教皇庁立ベルーカトリカ大学 (ベルー)	平成22年12月1日	学術交流ならびに共同的な研究事業の促進など。26年度には、同大学と協働して機関研究の成果刊行の準備を進めた。
アンタナナリヴ大学 (マダガスカル)	平成22年11月22日	学術分野における相互協力活動の促進など。26年度には、考古学的調査を共同で行い、同大学が過去に行った調査を補完する資料を得ることができた。
エジンバラ大学 (英国)	平成22年5月17日	学術交流ならびに共同的な研究事業の促進など。26年度には、英文論文集の編集と刊行にあたった。また、同大学の定期セミナーに若手研究者2名を派遣し、研究成果の発表・交流を行った。
故宮博物院 (中国)	平成21年10月16日	相互の学術交流、研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など。26年度には、共同研究の取りまとめに向け、打ち合わせを行った。
国立台北芸術大学 (台湾)	平成21年5月15日	相互の学術交流、研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など。26年度には、国立台湾歴史博物館におけるワークショップにて講義と討論、フィールドワークの指導を行った。

内蒙古大学 (中国)	平成20年9月22日	双方の教職員・研究者の交流・研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育分野における協力、学術資料・出版物の交換など。26年度には、研究論文集のとりまとめや日本モンゴル学会秋季大会での研究発表などを行った。
韓国国立民俗博物館 (韓国)	平成19年7月11日	研究者交流、共同研究、研究集会の実施、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など。26年度には、特別展準備・映像制作・フォーラム型情報ミュージアムについての協議をし、実施した。
順益台湾原住民博物館 (台湾)	平成18年7月1日	台湾原住民の現代的動態に関わる人類学的、言語学的、歴史学的研究、国立民族学博物館ならびに他の博物館に所蔵されている台湾原住民関連の資料に関する調査、報告書・研究誌の発行。26年度には、研究会合の開催ならびに関連学会等への組織的な参加など台湾原住民の文化と社会に関する研究活動を実施した。
国立サン・マルコス大学 (ペルー)	平成17年6月14日	考古学分野における共同研究員調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流を促進すること。26年度には、パコパンバ遺跡の発掘調査、同大学の学部学生の指導、共催シンポジウムの実施などを行った。



マリ文化省文化財保護局との協定締結に向けて開催されたシンポジウム(マリ)



北アリゾナ博物館との協定調印式(米国)

みんぱくフェローズ

これまで本館と関わりのあった海外の研究者、および本館と関連の深い国内外の研究機関を「みんぱくフェローズ」として位置づけ、そのネットワークを構築しています。

ネットワーク内の情報交換の手段として、英文のニューズレター(MINPAKU Anthropology Newsletter)を年2回発行し、交流を促進しています。「みんぱくフェローズ」として約1,200件が登録されています。

フェローズ地域別一覧 平成27年3月31日現在

地域	
アジア・中東・オセアニア	697
ヨーロッパ	193
北米・中南米	225
アフリカ	59
合計	1,174